

平成27年度
事業報告書

社会福祉法人札幌厚生会
救護施設札幌市あけぼの荘

平成27年度事業報告書 目次

総括	1
I. 利用者支援の充実	3
1. 利用者様の自己実現と個別支援計画の充実	
2. 利用者様の人権を尊重した支援の推進	
3. 利用者様の地域生活移行	
4. 利用者様主体の生活支援	
5. 生きがい活動の充実	
6. 作業活動の充実	
7. 地域活動の推進	
8. 緊急一時保護対策事業の推進	
II. 健康支援と感染予防	9
1. 健康相談の充実	
2. 健康診断の充実	
3. 回診の実施	
4. 服薬の管理	
5. 怪我の防止と残存機能の維持・増進	
6. 感染症の予防	
7. 緊急時の対応	
別紙 月別通院状況	
III. 食の向上と栄養管理	12
1. 栄養管理と栄養指導の充実	
2. 特別食の対応	
3. 豊かな食事の提供と食事環境の改善	
4. 非常時の対応	
5. 食品衛生・衛生管理の徹底	
6. 給食単価と平均栄養所要量	
別紙 給食状況調	
IV. 安定的な施設経営と効率的な施設運営	16
1. 安定的な施設経営	
2. 施設機能の充実と運営体制の強化	
3. 職員の専門性の確立	
4. 苦情解決に向けた取り組み	
5. 地域との連携	
6. 広報活動の充実と情報公開、個人情報保護の取り組み	
V. 施設の維持管理・環境改善	20
1. 施設設備の保守・点検	
2. 施設内の清掃・美化	
3. 施設の防災管理	
別表	21
別表1 入所状況	
別表2 職員配置状況	

平成27年度 札幌市あけぼの荘事業報告

総括

はじめに

我が国におけるセーフティーネットに係る施策のうち平成27年度においては「生活困窮者自立支援法」が施行され、生活保護に至る前の自立支援策を強化する動きが始まった。

全国救護施設協議会においては、「救護施設が取り組む生活困窮者支援の行動指針」が平成25年度に示されて以後、「利用者様の地域移行推進」や「循環型施設」としての機能が求められており、平成27年度を一旦の節目として総括された。

こうした背景のなか、当施設として以下の項目を大きな柱と掲げ取り組んできた。

1. 利用者支援の充実

個別支援計画に基づく支援体制については、ここ数年来当施設の課題としており、利用者様に対する認知、理解も概ねなされてきたところである。初期のアセスメントに加え複数回のモニタリングを重ねており、より細かな支援体制が出来つつある。しかしながら新規入所者様等の未計画である方も数名いることから今後課題を残した。日常生活の中でちょっとした外出やご家族の所への訪問、お墓参り、あるいは中長期的には施設を退所し地域で暮らしたい等の多岐に渡るニーズが具現化してきた。

「居宅生活訓練事業」については、開始以降1年が経過し、無事3名の方が訓練を終え施設を退所し近隣アパートでの地域生活へと送り出すことが出来、小さな一歩ではあるが「循環型施設」としての実績となった。また退所された方のうち2名については施設自主事業としての「通所事業」を開始し、施設内の軽作業に参加していただいたり、集会室等で今までのお仲間と談笑していただいたり日中の居場所づくりを提供した。また定期的にその方の自宅を訪問し、生活に変化や支障が無いかを見守ることも行った。

生活困窮者自立支援法に基づき札幌市が設立した「生活就労支援センター（ステップ）」の協力施設として「就労訓練事業」を申請し対象者の受け皿となる枠組みを構築した。

また、社会的課題となっている身体拘束廃止や人権擁護を基本とした支援については、毎月検討委員会を実施することで職員間の理解と意識向上を促した。「身体拘束廃止検討委員会」はその対象者がゼロであることはもとより、そうした状態に陥る懸念がある方への予防策を講じてきた。「人権擁護委員会」においてはセルフチェックによる実態調査や職員間の意識の差異を縮めていくことを目標としてきた。今後もより高い接遇を目指し継続実施していく。

2. 健康支援と感染予防

健康支援については、日常生活における観察や声掛けにより表情、顔色、口調、歩行状態等の状況把握をしていくことを基本としている。小さな変化や何がしかのサインに気づくことで重症化を防ぐよう努め、必要に応じて専門医療機関への受診をこまめに行った。

予防を目的とした「ラジオ体操」「リズム体操」は基本的に毎日行い、それに加え「バランス訓練」、「筋力低下防止訓練」等のリハビリを行い、少しでも自立した日常生活が維持できるよう努めた。また新年度に向けた新たな運動啓発カリキュラムを模索した。

感染症対策については、インフルエンザ予防接種に加え一部対象者には肺炎球菌ワクチンを接種した。また一昨年のインフルエンザ施設内流行を教訓とし、冬期には職員と利用者様にも協力をいただきながらうがい、手洗い、手指消毒の徹底（職員には携帯用消毒剤も配布）、及び室内の換気、湿度の確保に努め、今年度においてはインフルエンザの罹患者を出すことなく終えることが出来た。また利用者様の食事前と排泄後の手指消毒について習慣化することが出来た。

3. 食事と栄養管理

食事については、栄養価や衛生管理はもちろんのこと、利用者様にとって毎日の食事が楽しみとなることを大切にしているところである。季節感のある献立や希望を取り入れ、「適温」にこだわった食事内容の提供に努めた。

また、利用者様の個々の身体状況、喫食能力に応じて、粥食、きざみ食、極きざみ食、ミキサー食、とろみ食等の対応を行い摂食障害等がみられる方への適切な栄養摂取の確保に努めた。

非常時の対応としては、3日分の非常食の備蓄と避難訓練時には実際に非常食を試食し熱源や水道が出ないことを想定したものとした。

4. 安定的な施設経営と効率的な施設運営

平成27年度の年間平均措置人員は、当初の予算を大きく下回る92.9人にとどまった。新規入所者数は増えているものの他施設への移行、入院、死亡等による退所者数も増えており、従来型の滞留型から循環型（通過型）に変わる傾向もみられる。実施機関や精神科病院等各機関へのPR活動や救護施設の存在や新たな機能の周知を行い、救護施設を必要とする方の利用増に繋げるべく働きかけをしてきた。しかしながら実績としては不十分であることから今後の継続課題としていく。

リスクマネジメント対策の一環として実施してきている「ヒヤリ・ハット」及び「事故報告書」については、逐次報告と対策も都度講じられているが、課題が具現化している事案については更なる改善に向け今後の検討課題としていく。

平成26年度に受審した「福祉サービス第三者評価」結果が到着した。施設サービスのあり方に関する客観的指標となるものであることから今後活用していけるものと考えております。

資質の向上の観点から職員研修については積極的に実施してきた。それぞれテーマを掲げ外部機関への研修参加はもとより、研修委員会において吟味された提案内容について外部講師を招へいし二度の施設内研修を行った。

5. 施設の維持管理・環境改善

施設の維持管理については、建築後相当年数が経過していることから大小様々な不具合が生じてきている。発生した故障、破損箇所については迅速に修繕してきたこととともに、定期的な確認や専門業者等による保守点検により発覚した不具合箇所についても都度対処した。

I. 利用者支援の充実

生活支援においては、個人を尊重し、個々の自己決定と個人の持てる能力の活用を基本とした個別支援計画の整備を進め、より個別を意識した支援体制を整えた。

1. 利用者様の自己実現と個別支援計画の充実

本人がイメージする生き生きとした生活の実現を目標に、ケース会議を通じたアセスメントの徹底や職員間の情報の共有化を行うなど、個別支援計画の推進体制の整備を行った。

さらには、個別支援計画を利用者様個々に説明し、利用者様とともに支援目標の実現に向けた実践に取り組むなど、利用者様を主体とした支援体制を整えた。

① 個別支援計画推進体制の充実

ア. 希望・要望の聞き取り調査の実施

- ・4月から5月の2ヶ月間において、個別の面談や日常生活上の会話などを通じて利用者様の希望・要望の聞き取り調査を実施した。

イ. ケース会議の開催

- ・ケース会議において、利用者様個々が求めている生活のイメージを共有化し、担当介護職員によるアセスメントを基にニーズの整理を行い、個別支援計画を作成した。さらに、本人説明がされ実践が行われているケースのモニタリングを実施した。
- ・延べ開催回数 131回

2. 利用者様の人権を尊重した支援の推進

① 身体拘束廃止委員会の開催

- ・身体拘束を無くし、利用者様が安心して生活できる環境を整備するため、委員会を開催し、予防策の検討及び身体拘束廃止に対する意識高揚を図った。 委員会開催 5回

② 人権擁護検討委員会の開催

- ・利用者様の人権擁護を推進するとともに、支援の質の向上及び支援方法の確立を目指した。その中で職員のセルフチェックアンケート調査を実施し、委員会を開催。課題の検討及び虐待防止に対する意識高揚を図った。

委員会開催 6回

3. 利用者様の地域生活移行

① 居宅生活移行支援の充実

- ・昨年度より訓練を実施していた利用者様3名が地域移行することが出来た。また、新たに地域生活を希望される2名の訓練を実施した。近隣の訓練用住居より施設へ通所する中で金銭管理や調理、買物や公共交通機関の利用など、社会生活に必要な活動の訓練を実施した。

② 通所事業の確立（自主事業）

- ・居宅生活訓練を終了し地域移行を行った3名のうち、2名については引き続き施設へ通所出来る環境を整えた。施設内作業への参加や日中の居場所づくりとして施設を提供した。施設利用の際に相談支援を行うことで、安定した地域生活を継続することが出来た。

③ 居宅訪問の実施（自主事業）

- ・居宅生活訓練を終了し地域移行を行った3名の方のアパートを定期的に訪問し、生活相談支援や居宅内環境の確認を行い、安定した地域生活の継続を促した。

4. 利用者様主体の生活支援

利用者様が生活の主体者として個々の生活を考え、自主的な活動を行えるよう配慮しながら、次の施設内活動を実施した。

① 施設重要事項説明書の作成・活用

利用者様が施設入所の際、一貫した十分な説明を受ける事で施設入所への不安を和らげ、施設生活がよりイメージし易いよう、施設の重要事項説明書を活用した。説明書は入所後にも、施設生活の決まりや活動内容を再確認するための資料として活用されている。

② 医療行為に係る意思確認書の作成

利用者様が重篤な病気や怪我によりご自身の意思を十分に医療従事者へ伝えることが出来ない場合を想定して、ご本人やご家族の治療に関する希望や意向を事前に把握し、医療従事者へ伝えることがご本人の意思や人権を尊重する一つの方法であると考え、医療行為に係る意思確認（指示）書を作成した。意思確認書の作成は一部の利用者様に留まっているため、次年度以降の継続課題とした。

③ 利用者様の意見反映

ア. 意見交換会（隔月実施）

- ・介護職員の担当居室ごとに日常生活や各種活動についての意見交換を行い、それぞれの居室で

出された意見を集約する場として、隔月で居室の代表者が集まり、意見交換を行った。

イ. 全体集会（毎月実施）

- ・意見交換会で出された意見を施設生活の中に反映させるため、集会の中でその内容説明を行った。また、日常生活上の確認事項や各種活動の連絡など、生活全般に関わることを確認し、意見交換をする場として実施した。

ウ. 報告会（毎月実施）

- ・翌月の行事のお知らせや活動報告などを行う場として実施した。

④ 自主的活動の支援

利用者様のニーズに合わせた個別の支援を行うことにより、自主的な余暇活動の充実に努めた。

- ・フリータイムの実施（月1回）
- ・各種体操への参加（毎日実施～ラジオ体操、リズム体操）
- ・ビデオ放映（利用者様からの希望により内容選定し、月平均3回の上映を行った）
- ・地域図書館の活用による図書貸出（月2回）
- ・四ツ葉の集いへの参加（月1回）
- ・カラオケ愛好会活動への支援（利用者様の当番調整、相談）

⑤ 当番、清掃活動の取り組み

利用者様の当番制により、居室、共有スペースの清掃活動を行った。また、利用者様と職員が月例で普段行っていない共有スペースの清掃を行うことで建物美化に努めた。

- ・清掃活動（毎日～居室、共有スペース）
- ・各種当番活動（食堂当番、浴室掃除、灰皿掃除、新聞配達、体操の放送）
- ・月例清掃（毎月～共有スペース）

⑥ ご家族等との交流支援

ご家族やご友人との面会や外出、お盆や正月の帰省などを働きかけ、ご家族等との交流を深めていただいた。また、機関紙「みちしば」をご家族の方に送付し、生活の様子をお知らせした。

ア. ご家族との交流状況

- ・面会の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
面会者数	9	8	15	8	5	11
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
面会者数	3	8	16	8	11	14

*延べ面会者数 116名

・外出の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
外出者数	3	3	4	1	4	3
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外出者数	2	2	4	10	4	3

*延べ外出者数 43名

・外泊の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
外泊者数	2	1	2	1	6	0
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外泊者数	1	0	3	2	0	0

*延べ外泊者数 18名

イ. 機関紙「みちしば」のご家族様への送付

施設の行事や利用者様の近況を掲載しご家族様にお知らせした。

- ・発行回数 年4回
- ・送付部数 94部/1回

5. 生きがい活動の充実

活気に満ちた生きがいのある日常生活を送ってもらうため、利用者様のニーズに応じた様々なレク活動やクラブ活動を実施した。

① クラブ活動の充実

クラブ名	実施回数	参加延人数	実施内容
音楽クラブ	12回	222人	音楽CD、DVDの鑑賞。合唱と器楽の練習を行い、クリスマス演芸会にて「赤鼻のトナカイ（器楽）」と「おもちゃのチャチャチャ（合唱）」を発表した。
華道クラブ	23回	150人	講師の先生による指導の下、個々が活かした作品を共用スペースや施設長室等に飾った。また、開設記念行事で展示することでより多くの方に見て頂いた。
書道クラブ	12回	181人	参加者が自分の作品を書き、日常的に掲示する事や開設記念行事に展示することで多くの方に見て頂いた。また利用者様全体に呼びかけ七夕の短冊作りや元旦には書初めを行った。
自遊クラブ	12回	214人	お雛様、五月人形、七夕、クリスマス、正月等、季節の飾り付けの他、ぬり絵、ペットボトルボウリング、盆踊り等を行った。
手芸クラブ	24回	146人	ネックレス、パスケース、スマホ入れ、メガネケース、ストラップ、薬タンス等の作品づくりを行った。開設記念行事にて展示、即売を行った。
四ツ葉の集い	12回	60人	他施設の視覚障害者の方との交流及び情報交換を行った。

② レク活動の充実

ア. グループレクの実施

利用者様が好きなレクを自由に選択し楽しんだ。

実施日	内容	参加者	実施日	内容	参加者
4月14日	天童よしみコンサート	1名	9月8日	動物園見物	6名
5月15日	コンサート観賞	3名	11月5日	食事会	5名
5月27日	石川さゆりコンサート	2名	11月11日	日帰り温泉	5名
6月9日	野球観戦	5名	11月17日	食事会	8名

6月18日	イチゴ狩り	3名	12月3日	ボウリング	1名
6月24日	八神純子コンサート	1名	12月3日	カラオケ	2名
7月8日	買い物	16名			
7月22日	買い物	13名			
8月12日	水族館見物	3名			

イ. 買物レクの実施

利用者様が5班に分かれ、買物を楽しんでもらった。

- ・実施日 1班 4月28日 2班 5月21日 3班 6月16日 4班 9月29日
5班 10月21日
- ・行先 イオン平岡店
- ・参加者 1班 17名 2班 17名 3班 16名 4班 15名 5班 14名
合計79名

ウ. 宿泊旅行

班編成	日程	行先	内容	参加人数
第1班	9月16日～17日	小樽	朝里川温泉への宿泊、おたる水族館見物	13名
第2班	10月27日～28日	定山溪	定山溪温泉への宿泊、藻岩山展望台見学	9名
食事会	11月19日	札幌	くるるの杜での食事会	8名

※食事会は、宿泊旅行に参加出来なかった方を対象に実施した。

エ. 食事会

利用者様に好きなお店を選んでもらい、普段とは違った雰囲気の中で食事を楽しんでもらった。

- ・行き先 焼肉バイキング、ホテルバイキング、和食バイキング、カレー屋、ラーメン屋、
回転寿司、ファミリーレストラン（和食、洋食）、お好み焼き屋、パン屋
- ・参加者数 83名

オ. その他施設行事

実施日	行事名	内容	備考
4月1日	新担当顔合わせ	新規居室メンバーと担当介護職員との顔合わせを行なった。	
4月16日	合同カラオケ交流会	合同でのカラオケ大会を通じ、他の救護施設の利用者様との交流を深めた。	参加者 47名
5月9日	第53回開設記念	施設の開設記念日をご家族様や普段お世話になっている方々と共にお祝いした。	来荘者 154名
7月2日	屋外レク	隣接する公園で散策や軽い運動など個々に体を動かした。	
8月20日	物故者孟蘭盆会法要	お盆の供養を利用者様全員で行った。	
9月9日	合同パークゴルフ大会	合同でのパークゴルフ大会を通じ、他の救護施設の利用者様との交流を深めた。	参加者 10名
9月16日	敬老会	お祝い品を贈呈し、長寿のお祝いを利用者様と共に行なった。	
1月14日	カルタ大会	施設内で百人一首、地名カルタなどを行い、季節の行事を楽しんだ。	
1月27日	施設内レク	ゲーム大会を実施した。	
2月3日	節分の豆まき	年男、年女の方に施設内を回って頂き、豆まきを行った。	対象者 7名
2月17日	勉強会	インフルエンザ予防と転倒防止について、ビデオ放映と質疑応答を行い、健康管理に対する意識の高揚と理解を深めた。	

6. 作業活動の充実

社会参加の一環として、より多くの方が自主的に参加出来るよう、作業に係りやすい環境の整備と安定した作業量の確保に努めた。

また、作業を通して、利用者様がお互いに協力し合い、相互理解を深めていけるよう配慮した。

① 作業実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施延べ日数 (日)	10	11	16	14	23	19	24	24	19	16	16	21	213
参加延べ人員 (人)	371	401	603	633	752	708	795	820	746	596	614	887	7,926
1日平均参加 人員(人)	37	36	38	45	33	37	33	34	39	37	38	42	451
箸 作 業 実績(本)	22,400	37,470	32,400	37,998	78,319	51,950	20,000	48,998	37,450	27,000	42,299	62,449	498,733
箸 作 業 収益金(円)	17,920	29,976	25,920	30,398	62,655	41,560	16,000	39,198	29,960	21,600	33,839	49,959	398,985
袋 作 業 実績(枚)	0	0	0	0	2,020	0	1,981	5,000	0	2,970	0	0	11,971
袋 作 業 収益金(円)	0	0	0	0	2,828	0	2,773	7,000	0	4,158	0	0	16,759
その他作業 実績(部)	0	0	0	1,998	0	0	7,260	4,000	0	0	2,000	0	15,258
その他作業 収益金(円)	0	0	0	1,998	0	0	10,660	4,000	0	0	1,600	0	18,258
収 益 金 総 額 (円)	17,920	29,976	25,920	32,396	65,483	41,560	29,433	50,198	29,960	25,758	35,439	49,959	434,002

② 作業内容

- ・お弁当用箸セット製作作業
- ・ショッピングバック製作作業
- ・その他作業(封入作業、折込作業等)

③ 作業工賃の支給

・偶数月に当該月の前2ヶ月分の作業参加回数を集計し、その出席回数と当該月の収益金を基礎とした

計算により、作業賃金を個々に支給した。

- ・平成27年度作業収益金総額 434,002円

7. 地域活動の推進

地域住民の一員として、地域清掃による地域活動を実施した。

① 地域清掃の実施

地域の美化と公園を利用する子供たちの安全を考え、隣接の公園や歩道の清掃を実施した。

- ・実施回数 2回
- ・清掃場所 コスモス公園、近隣の歩道

② 地域交流の実施(再掲)

ア. 共栄第二町内会夏祭りへの参加

II. 健康支援と感染予防

利用者様一人ひとりの安心と健康の保持増進、残存機能の維持を図りながら、嘱託医の指示の下、以下のことを行った。

1. 健康相談の充実

利用者様の半数以上の方が何らかの精神障害を抱えている中で、共同生活からくるストレスや不満が溜まりやすく、また将来に対する不安も抱え易いことから、日常の小さな変化や悩みのサインを見逃さないよう観察を密に行い、利用者様の主体性や意思を尊重した相談・支援に努めた。

2. 健康診断の充実

疾病の早期発見・早期治療のため、定期健診をはじめ健康チェックや個別検査の充実に努めた。

① 定期健診

検診名	実施日	実施機関名	受診者	要精検者
胃癌検診	4月8、9日	白石区保健センター	73名	6名
大腸癌検診	4月8、9日	白石区保健センター	80名	2名
胸部検診	5月20日	札幌複十字総合健診センター	69名	4名
	11月10日	札幌複十字総合健診センター	73名	3名
乳癌検診	3月17日	北海道対がん協会	17名	0名
子宮癌検診	3月17日	北海道対がん協会	20名	0名

※ 要精検者については、嘱託医の指示により適正に対処した。

② 施設内健康チェック

ア. 体重測定の実施

- ・毎月第1月曜日 →女子体重測定
第1金曜日 →男子体重測定

イ. 血圧測定の実施

- ・毎月第2月曜日 →女子血圧測定
第2金曜日 →男子血圧測定

③ 入所時検診

- ・居宅から直接入所される方や一時保護で入所される方については、事前に嘱託医による健康診断を受診してもらい、感染症の有無や病歴等の把握を行った。

④ 個別検査

- ・嘱託医、主治医の指示を受け、胸部レントゲン、頭部レントゲン、CT、心電図、エコー、胃カメラ、採血、検尿等の検査を実施した。

3. 回診の実施

内科嘱託医、精神科嘱託医、皮膚科、歯科の定期的な回診を実施し、利用者様のきめ細かな健康管理と経過観察に努めた。なお、回診や通院により受診した月別患者数は別紙のとおり。

4. 服薬の管理

利用者様の約9割が服薬を必要としており、うち自己管理が難しい方（現在61名）については医務管理とし、食事後や就寝時に介護職員と連携し配薬を確認した。

また自己管理が出来る方についても、定期的に残薬のチェックを行い服薬の安全に努めた。

5. 怪我の防止と残存機能の維持・増進

高齢化に伴う筋力の低下をできるだけ抑え、日常生活機能を失わないよう援助した。
転倒防止の為、状況に合わせてセンサーマットを使用し対応した。

① 健康の維持・増進

ア. ラジオ体操、リズム体操の実施

- ・毎日実施

イ. 歯磨き指導及び義歯の洗浄着脱指導の実施

- ・実施回数 年3回
 - ・良い歯の日：4月18日 ・虫歯予防デー：6月4日
 - ・いい歯の日：11月7日

② リハビリテーションの充実

- ・リハビリ訓練の実施
- ・対象者 11名（A班7名、B班4名）
- ・実施回数 152回

リハビリ訓練月別実施回数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施回数	13	10	13	14	12	12	13	12	14	12	12	15	152

6. 感染症の予防

インフルエンザの予防接種をはじめ、毎日の手洗い・うがいの徹底や施設内の除菌の徹底など、感染症の防止に努めてきた。また食中毒や疥癬等が疑わしい時は主治医にすみやかに報告し、早期受診と早期治療に努めた。

ア. インフルエンザ予防接種の実施

- ・利用者様及び職員を対象に実施した。

イ. 肺炎球菌ワクチンの実施

- ・対象の一部利用者様に実施した。

ウ. 手洗い・うがいの徹底

- ・日常の手洗い・うがいの徹底のほか、施設レクや買い物、通院の帰荘後のうがい手洗いを徹底するなど、感染症の予防に努めた。
- ・食堂、玄関、各階洗面所に手指消毒剤を設置し、全職員は携帯用消毒剤を持ち消毒の徹底をした。

エ. 除菌の徹底

- ・施設内の除菌を全職員で実施した。（夏季1日1回・冬季1日2回）
- ・冬期間、施設内の換気を全職員で実施した。（午前、午後の2回）

7. 緊急時の対応

のど詰、転倒事故による怪我、意識障害などの事態に対し職員全員が初期対応を行えるよう知識・技術の習得に努めた。

ア. 救急処置に関する研修の実施

- ・AED、酸素吸入、手動式人工蘇生器等の使用法、救急時の初期対応について理解を深めた。

イ. 「さっぽろ救急サポーター」の周知

- ・AED設置について、玄関前に「さっぽろ救急サポーター」のステッカー貼付し、近隣の方々に使用いただけるよう周知した。

別紙

月別通院状況

延べ人員(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	施設外	11	1	24	9	6	6	9	14	7	6	6	10	109
	施設内	25	22	21	27	19	28	29	18	21	25	25	20	280
精神科	施設外	0	3	4	7	1	4	8	10	6	3	4	4	54
	施設内	21	15	20	17	16	17	16	20	21	19	18	17	217
外科	施設外	7	0	7	9	5	2	2	4	1	1	4	1	43
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	施設外	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
	施設内	11	7	12	10	7	10	9	8	6	7	9	8	104
歯科	施設外	10	3	1	3	7	6	7	7	8	12	13	5	82
	施設内	19	18	25	11	26	19	14	14	24	24	21	20	235
婦人科	施設外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	施設外	3	3	2	3	0	1	5	8	1	2	2	2	32
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	施設外	2	6	1	4	3	7	9	6	2	0	4	3	47
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	施設外	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	5
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	施設外	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器科	施設外	1	1	1	5	4	3	4	4	3	2	3	4	35
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受診者数	施設外	35	17	41	40	27	29	44	54	29	26	39	30	411
	施設内	76	62	78	65	68	74	68	60	72	75	73	65	836
	合計	111	79	119	105	95	103	112	122	101	101	112	95	1,247

Ⅲ. 食の向上と栄養管理

利用者様に満足度の高い食事をしていただけるように、セルフ配膳で適温の食事を提供した。また衛生面では感染症（ノロウイルス）や食中毒の防止に努め、安全な食事ができるよう配慮した。

1. 栄養管理と栄養指導の充実

利用者様の身体状況・生活状況を把握し、個々の健康・栄養状況に応じた栄養管理を行った。

① 献立表の作成

- ・食事摂取基準、給与食糧構成に基づいた献立を作成した。また、食中毒の危険がある食品の使用は避け、利用者様の意見を反映しながら、献立構成の見直しを図った。

② 個別栄養管理

- ・利用者様個々の身体状況、喫食能力等により、粥食、きざみ食、極きざみ食、ミキサー食、とろみ食の対応を行った。

③ 栄養指導

- ・「全体集会」や「健康に関する勉強会」で食事やおやつを取り方について解りやすく説明した。さらに食事の際に、調味料のかけ過ぎや好き嫌いがないよう個々に声かけを行った。

2. 特別食の対応

利用者様個々の疾病等を考慮し、特別食の対応を行った。

- ・マンナン食
- ・エネルギー制限食
- ・減塩食
- ・アレルギー等による代替食

3. 豊かな食事の提供と食事環境の改善

日常生活に変化をもっていただき、楽しく食事をしていただけるよう、日本の四季や文化を感じる行事食を提供した。

① 食事環境の改善

- ・自由席を継続し、ゆったりとした雰囲気の中、食事ができるよう環境を整えた。
- ・時差、セルフ配膳を行い、ゆとりある時間の中で適温の料理を提供した。

② 行事食、セレクトメニュー、イベント食等の充実

- ・食が最大の楽しみとなるよう、開設記念日、クリスマス会等の行事食をはじめ、選択食、バイキングの実施や季節、祝日にちなんだ食事を提供した。

ア. 選択食

回数	実施日	選択食の内容
1	4月15日	焼豚麺：えびカツバーガー、チーズスフレ：桃とひよこ豆の寒天
2	9月15日	かき揚げ丼：照焼バーガー、マロンケーキ：ごまだれ団子
3	10月19日	あんかけ焼きそば：天ぷらうどん、南瓜のタルト：栗入り水羊羹
4	3月16日	チキンきのこドリア：あんかけかに炒飯、桃のタルト：わらび餅

イ. バイキング食

- ・実施日 2月9日
- ・献立 白飯、パン（ロールパン・オレンジデニッシュ）、ソース焼きそば、ザンギ、スコッチエッグ、白身魚の黄身焼き、海老のマヨネーズ炒め、南瓜のグラタン、サラダ、大学芋、冷やし汁粉、いちごのショートケーキ、チョコロールケーキ

ウ. 流しソーメン

- ・実施日 7月16日

エ. お弁当献立

- ・実施日 ①6月23日 ②11月12日

オ. 誕生会

- ・誕生月の利用者様から料理の希望を聞き、一番希望の多かった料理を毎月の誕生会に提供した。

カ. イベント食

◎開設記念日

- ・開設記念日に、寿司コーナー・おでんコーナー・焼き鳥コーナー・飲み物コーナー・喫茶コーナー等を設け、お祭り感覚の中で、好きな食事を家族や友人の方たちと楽しんでもらった。

◎夏祭り・七夕祭り

- ・夏祭り・七夕祭りには、焼きそば、お好み焼き、フランクフルト、カキ氷などのコーナーを出店風に設け、昼食を楽しんでもらった。

キ. クリスマス会食、年越し会食、おせち料理

◎クリスマス会食

- ・クリスマス会食では、ケチャップライス、ローストチキン、グラタンやテリーヌ、キッシュ、サーモンマリネなどクリスマスらしい内容でのオードブルやケーキを楽しんでもらった。

◎年越し会食

- ・12月30日の年越し会食では、お弁当箱を用いて、生寿司、海老、旨煮、茶碗蒸し、数の子、金平牛蒡、昆布巻き、栗きんとん、練り切りなど、正月らしい料理を楽しんでもらった。
- ・また、大晦日の夕食では、親子丼と年越しそばを楽しんでもらった。

◎おせち料理

- ・元旦には、朝食に伊達巻や黒豆などおせち五点盛り、昼食では雑煮を楽しんでもらった。

ク. 季節食

- ・季節に合わせ、日本の文化に触れる行事食を提供した。

土用の丑の日（うな井）	餅つき（雑煮）	冬至（冬至南瓜）
七草（七草粥）	節分（いなりとりの巻き）	ひな祭り（甘酒、ちらし寿司）

ケ. 祝日食

- ・祝日には、季節や家庭の温かみを感じてもらうため行事食を提供した。

昭和の日（生ちらし）	憲法記念日（鮭寿司）	みどりの日（山菜おこわ）
子供の日（赤飯、刺身）	海の日（ちらし寿司）	敬老の日（赤飯、刺身）
秋分の日（三色おはぎ）	体育の日（栗御飯）	文化の日（お汁粉）
勤労感謝の日（いくら親子丼）	天皇誕生日（ちらし寿司）	建国記念の日（鉄火丼）
春分の日（三色おはぎ）		

③ 利用者様の意見反映

ア. 給食会議における利用者様の意見反映

- ・給食会議において、居室ごとに取りまとめた食事に対する意見、要望を利用者様の代表から聞き、給食に反映させた。

イ. 嗜好調査の実施

- ・実施日 平成28年1月
- ・調査対象 利用者 88名

4. 非常時の対応

① 非常食の備蓄

- ・災害等に備えるため、非常食を備蓄した。
- ・備蓄内容
御飯類、スープ類、フルーツ缶、水、補助食品等、合わせて100名×3日分

② 非常食の試食

- ・防災訓練の一環として、避難訓練の日に備蓄してある非常食を昼食として試食した。
- ・と き 平成27年10月20日
- ・内 容 チキンライス、オニオンスープ、パイミン缶、水、えいようかん

5. 食品衛生・衛生管理の徹底

安全な食事を提供するため、清潔な調理環境と調理従事者の健康、衛生管理に努めた。

① 調理室内の除菌

- ・1日3回実施（実施時間 9：30、14：00、15：00）

② 調理室内の温度測定

- ・1日2回実施（実施時間 6：00、18：00）

③ 冷蔵、冷凍庫の温度測定

- ・1日2回実施（実施時間 6：00、18：00）

④ 水質検査の実施

- ・1日2回実施（実施時間 6：00、18：00）

⑤ 原材料及び、調理済み食品の検査用保存食の保存

- ・2週間分実施

⑥ 加熱調理済み食品の中心温度測定

- ・加熱調理済み食品全てを測定

⑦ 栄養士及び、調理従事者の検便検査

- ・月1回実施

⑧ 調理従事者の個人衛生管理表による健康、衛生チェック

- ・1日1回出勤時に実施

6. 給食単価と平均栄養所要量

① 給食単価

下記単価により給食を提供した。

給食費	1人1日	939円
嗜好品	1人1週	455円
外食	1人1回	1,635円

② 平均栄養所要量

別紙「給食状況調」による基準により給食を提供した。

別紙

給食状況調

	kcal	g	g	mg	mg	ビタミン				1人1日当たり平均金額	食数
	エネルギー	蛋白質	脂質	カルシウム	鉄	A(μg)	B1(mg)	B2(mg)	C(mg)		
27年4月	1,807	72.4	43.2	692	10.1	777	1.24	1.52	136	896	2,762
27年5月	1,825	73.3	44.1	702	9.9	875	1.24	1.56	133	928	2,712
27年6月	1,806	71.9	44.6	687	9.5	758	1.25	1.52	150	902	2,593
27年7月	1,811	73.4	43.7	703	11.6	850	1.22	1.59	135	910	2,635
27年8月	1,814	72.7	43.3	687	9.3	777	1.30	1.52	145	855	2,583
27年9月	1,805	73.7	43.0	681	9.8	825	1.33	1.53	130	966	2,514
27年10月	1,791	70.9	41.4	694	9.9	790	1.20	1.51	132	849	2,747
27年11月	1,807	73.3	43.0	715	9.7	816	1.25	1.54	130	919	2,718
27年12月	1,829	74.5	43.3	676	9.5	755	1.23	1.54	143	1,074	2,727
28年1月	1,807	72.7	43.5	718	10.1	768	1.24	1.52	139	954	2,730
28年2月	1,846	74.8	44.5	719	10.9	788	1.20	1.55	132	924	2,583
28年3月	1,812	72.5	41.9	718	10.9	898	1.28	1.66	155	1,088	2,769
合計	21,760	876.1	519.5	8,392	121.2	9,677	15.0	18.6	1,660	11,265	32,073
月平均 1人1日 当たり	1,813	73.01	43.29	699	10.1	806	1.25	1.55	138	939	2,673

IV. 安定的な施設経営と効率的な施設運営

1. 安定的な施設経営

安定的な施設経営のために、最大の収入財源である利用人員の充足を目指した。しかしながら今年度においては十分な人員確保にはならなかった。それ故利用者様へのサービス低下につながらないように最大限配慮しながら大幅なコスト削減に取り組んだ。

① 定員の充足

- ・継続的な利用者様の確保（通年平均措置人員実績92.9名、月別人員は別表1を参照）
- ・札幌市内及び近郊の福祉事務所、病院相談窓口等へのPR活動を行った。（実績16件）

② コスト削減

- ・点けっぱなし・出しっぱなしの撲滅、コピー配布物の減少等、コスト意識の向上について職員および利用者に啓発した。
- ・調達物品等の再見積等により経費の節減に努めた。
- ・札幌市環境局環境保全行動に基づく二酸化炭素排出量削減に取り組んだ。

2. 施設機能の充実と運営体制の強化

利用者様が安心して生活できるよう、事故防止のための検証やマニュアルの整備を行い、事故を未然に防ぐための処置を講じた。また各種委員会や施設運営のための各種会議の活性化をはかり、職員間の連携の強化や効率的な施設運営に努めた。

① マニュアル等の整備

ア. ヒヤリハット報告の徹底

総合的なリスクマネジメントの取り組みとして、ヒヤリハット報告の徹底や事象の検証方法についてフローチャート化し職員に徹底するなど、取り組みの充実を図った。

《年間分類別事例数》

投薬	転倒・転落	食事・誤嚥	無断外出	設備	防災	外出先	外部	忘れ	勘違い	その他	合計
3	8	4						2		8	25

イ. 事故報告書（インシデントレポート）の徹底

事故が起きた場合は、どんな小さな事故でも事故報告書をすみやかに提出するよう徹底し、事故を未然に防ぐための分析と対策を講じ、事故の再発防止に努めた。

《年間分類別事故数》

無断外出	転倒	誤嚥・誤薬	その他	合計
3	4	7	1	15

② 委員会活動の充実

ア. 人権擁護委員会の発足と開催

より高い質の支援を目指し、また利用者様の人権擁護を推進することを目的とし委員会を発足した。全職員を対象としたセルフチェックアンケートを実施し、支援のあり方について日頃疑問に思っていることや、いわゆる虐待と呼ばれる行為について等を学び、職員間の意識の差異を縮めていくことを目指した。毎月職員会議後に実施した。

イ. 研修企画委員会の開催

- ・とき 9月15日・11月11日・11月30日
- ・ところ 会議室
- ・内容 各部署の研修希望テーマと講師について

*施設内研修の実施にあたり、事前に委員会の委員が研修テーマ・講師に関するヒアリングを実施した。

③ 業務の効率化

- ・運営会議の開催 (月1回)
- ・職員会議の開催 (月1回)
- ・給食会議の開催 (月1回)
- ・指導会議の開催 (月1回)
- ・入所検討会の開催 (年11回)
- ・人権擁護委員会 (身体拘束廃止検討委員会) (年11回)

④ 障害者雇用の促進

障害者雇用促進法に基づき、障がい者の積極的雇用を推進してきているところであり、数年前より清掃業務職員が定着している。活き活きとして働いておりかつ日常業務の効率化も図られている。

3. 職員の専門性の確立

あけぼの荘「基本理念及び6つの基本方針」の行動規範を遵守し、専門職集団としての資質とサービスの更なる向上に努めた。また職員の福利厚生の実施をはかることで、より活気のある職場づくりに努めた。

① 職員体制と専門性の強化

ア. 加配の実施

- ・救護施設職員配置基準に基づく適正な職員配置に加え、加算制度を利用した職員配置を行った。(介護職員1名、看護師1名)

イ. 研修会への参加

- ・外部団体主催の各種研修会への積極的な参加を行った。

研修名	とき	ところ	参加者
福祉専門職のためのスキルアップ研修 (初任者)	5/14～15	札幌市 かでの2・7	1名
新任介護職員研修	6/10～11	札幌市 かでの2・7	1名
第45回全道救護施設職員研修会	6/11～12	函館市 ホテル法華クラブ	7名
接遇研修会	6/17	札幌市 かでの2・7	1名
メンタルヘルス研修	7/23～24	札幌市 かでの2・7	1名
成人の発達障害の理解と対応研修会	8/6	札幌市 北海道看護協会	1名
相談支援職員研修	8/20	札幌市 北農健保会館	1名
施設の食事を考える研修 (前半)	8/27	札幌市 北農健保会館	2名
リスクマネジメント研修②	9/10	札幌市 北農健保会館	1名
福祉専門職のためのスキルアップ研修 (チームリーダー)	9/29～30	札幌市 かでの2・7	1名

施設の食事を考える研修（後半）	10/8	札幌市 北農健保会館	2名
第39回 全国救護施設研究協議大会	10/8～9	札幌市 パークホテル	8名
対人援助レベルアップ研修	11/5	札幌市 北農健保会館	1名
社会福祉法人経理取扱実務研修会	11/20	札幌市 ガーデンパレス	1名
個別ケア実践研修	11/19	札幌市 北農健保会館	1名
医療知識向上研修	12/3	札幌市 北農健保会館	1名
平成27年度 救護施設福祉サービス研修会	12/7～8	東京都 タイム24ビル	2名

ウ. 施設内研修の実施

回数	とき	ところ	研修内容	講師	参加者
第1回	10/10	地域交流室	『リスクマネジメントとヒヤリハットの活用』について	特別養護老人ホームみどりの丘 施設長 福島義典氏	20名
第2回	2/19	地域交流室	『障害の理解と接し方』について	専門学校日本福祉学院 専任講師 松本貴一氏	16名

エ. 新人研修の実施

- ・新規採用職員・転入職員への新人研修を実施した。

① 職員の福利厚生

- ・労働安全衛生法に基づく職員健康診断を実施した。（全職員11月、夜勤業務従事者のみ5月）
- ・福祉医療機構・北海道民間社会福祉事業職員共済会・福利厚生センターに加入し職員が働きやすい環境の整備に努めた。
- ・職員親睦会において慶弔費の給付、歓送迎会等を実施した。
- ・道救協・札幌協レクリエーションへ積極的に参加し会員相互の親睦を深めた。

4. 苦情解決に向けた取り組み

苦情受付に関する利用者様への周知、意見箱の設置など、利用者様から意見や苦情を出しやすい環境づくりに努めている。

- ・苦情受付件数 1件～利用者様間の共用部テレビの使用方法について

5. 地域との連携

町内会等との交流事業の促進や施設機能の地域開放など、地域に開かれた施設として、地域との「共生」を目指し、地域との連携、交流の促進を図った。

- ア. 施設行事への参加呼びかけ
 - ・「夏祭り」開催の呼びかけを町内会、近隣関係者、児童会館等に行いご参加いただいた。
- イ. 地域交流室の開放
 - ・近隣町内会等へ会場提供を行った。（利用実績：7回、延べ60名）
- ウ. 近隣町内会主催の夏祭りへの参加
 - ・今年度は雨天のため参加を見合わせた。

6. 広報活動の充実と情報公開、個人情報保護の取り組み

ホームページや広報誌を通じて、利用者様の生活や行事等を家族にお伝えするとともに、札幌市あけぼの荘の事業内容や決算状況を不特定多数の方々に公開した。

① 広報活動の充実

- ア. ホームページの更新
 - ・年間閲覧数：4,449カウント
 - ・<http://akebonoso.sapporo-koseikai.jp/>

イ. 広報誌「みちしば」の発行

- ・発行部数 170部
- ・配布先: ご家族・関係機関
- ・発行内容

号数	発行日	発行内容
136号	4月15日	平成27年度事業計画、施設内レク、バイキング食 等
137号	7月15日	買物レク1・2・3班、開設記念、本通小施設見学 等
138号	10月15日	一泊レク小樽1班、夏祭り、流しソーメン、敬老会、買物レク 等
139号	1月15日	買物レク、一泊レク定山溪、クリスマス、年越し 等

② 情報公開

- ・ホームページにおいて施設概要、事業報告書及び決算収支状況を開示した。

③ 個人情報保護の取り組み

- ・個人情報保護規程に基づく個人情報保護を徹底した。
- ・プライバシーに配慮した支援を行った。
- ・マイナンバー法の施行に伴い特定個人情報について適正に管理した。

V. 施設の維持管理・環境改善

1. 施設設備の保守・点検

各種機器の維持管理及び、経年変化による建物の劣化に伴う各所修繕を実施した。

① 設備の保守・点検

- ・消防用設備の点検（年2回～専門業者／自主点検：毎月）
- ・自家用電気工作物（キュービクル）の点検（毎月～専門業者）
- ・エレベータの保守点検（毎月～専門業者）
- ・温水ボイラーの保守点検（4月・11月～専門業者）
- ・受水槽・貯湯槽の清掃保守及び水質検査（2月～専門業者）
- ・浴槽水の分析検査（レジオネラ属菌検査）（3月～臨床検査業者）
- ・機械警備の保守点検（毎月～専門業者）

② 設備等の修繕・高額物品の購入（30万円以上抜粋）

- ・公用車（軽自動車）の購入
- ・NAS（パソコン機器）の買換
- ・2階中央トイレ漏水修理工事
- ・火災通報機取替工事

2. 施設内の清掃・美化

居住環境の清潔保持と施設内感染の予防に努めた。

- ・館内床美装（食堂：隔月／その他廊下等：年2回）
- ・布団丸洗い及び乾燥殺菌（丸洗い4月、乾燥殺菌10月）
- ・シーツ・ホーフの交換（月2回）
- ・居室内カーペット部分（汚損箇所）洗浄（年1回）
- ・月例清掃（毎月～職員と利用者の協働清掃）
- ・館内除菌（インフルエンザ、ノロウイルス対策）の実施（毎日～職員が実施）

3. 施設の防災管理

防火はもとより万が一の災害に備え、組織的な体制を整備し訓練を実施した。

① 防災対策の推進

- ア. 消防計画に基づく自衛消防隊の編成
- イ. 放火対策として、施設周辺の可燃物等の整理整頓
- ウ. 緊急時における職員連絡体制の整備
- エ. 防災設備、備品の整備の購入

② 防災訓練の実施

実施日	開始時刻	出火想定場所	参加者	備考
4月15日	10:00	2階・喫煙室	95名	自衛消防訓練(検証訓練)
10月20日	10:00	2階・喫煙室	101名	地震及び火災を想定した総合訓練
2月26日	19:30	1階・作業室	91名	夜間を想定した自衛消防訓練

別表 1

入所状況(平成28年3月31日現在)

入退所状況調

(人)

月	H27.4	5	6	7	8	9	10	11	12	H28.1	2	3	平均
月初措置人員数	95	92	92	90	91	92	93	95	96	96	95	91	93.17
自由契約者数	1	1	1	1	1	2	3	3	2	2	2	3	1.83

月	H27.4	5	6	7	8	9	10	11	12	H28.1	2	3	合計
入所者数	4 (3)	4 (2)	0	3 (1)	5 (2)	4 (1)	6 (2)	5 (2)	3 (1)	3 (2)	2 (1)	7 (3)	46(20)
退所者数	6 (2)	4 (1)	2 (2)	2	5 (1)	4 (2)	2 (1)	4 (2)	3 (3)	4	6 (2)	4 (2)	46 (18)
延人数(現員)	2,770	2,721	2,598	2,644	2,588	2,523	2,752	2,729	2,734	2,734	2,588	2,777	32,158

※ () は緊急一時保護対策事業による措置人員数を再掲

理由別入所者調

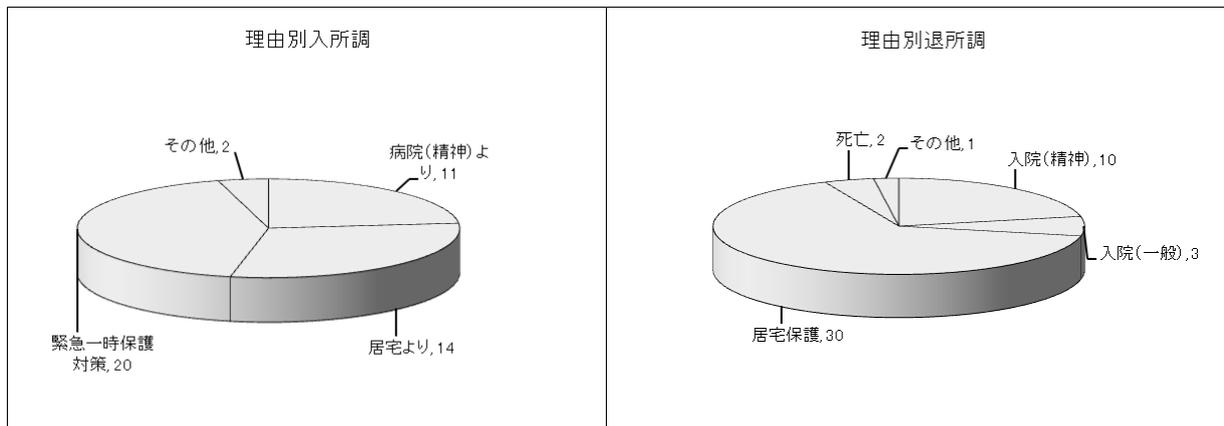
(人)

月	H27.4	5	6	7	8	9	10	11	12	H28.1	2	3	合計
病院(精神)より	1	0	0	0	2	1	3	2	0	0	0	2	11
病院(一般)より	0	0				0	0		0	0	0	0	0
同一法により	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0
他法により		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
居宅より	0	2	0	3	0	2	1	1	2	0	1	2	14
緊急一時保護対策事業により	3	2		1	2	1	2	2	1	2	1	3	20
その他	0	0	0	0	1	0		0	0	1	0	0	2
合計	4	4	0	4	5	4	6	5	3	3	2	7	47

理由別退所者調

(人)

月	H27.4	5	6	7	8	9	10	11	12	H28.1	2	3	合計
入院(精神)	0			0	2	1	1	2	0	2	2		10
入院(一般)	1	0			1	0	0	0	0		1		3
居宅保護	3	4	2	1	2	3	1	2	3	2	3	4	30
同一法による施設	0	0	0			0	0	0	0	0		0	0
他法による施設			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
死亡	1	0	0	1		0	0	0	0		0	0	2
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	6	4	2	2	5	4	2	4	3	4	6	4	46



年齢別調

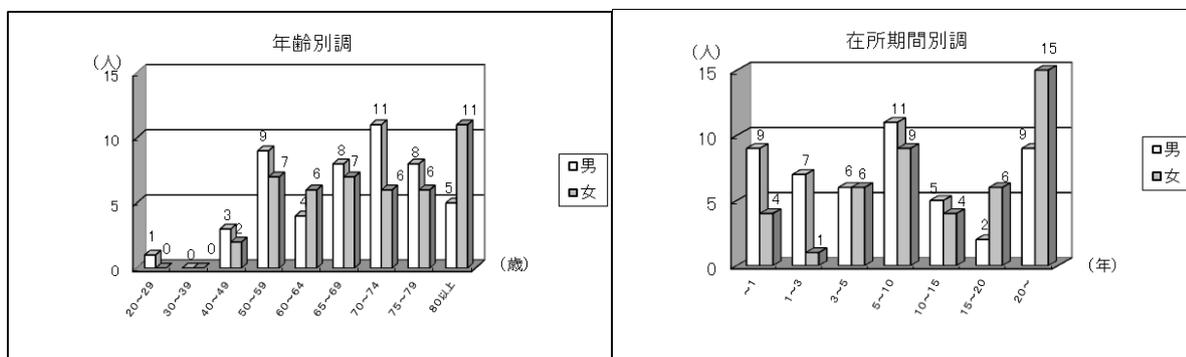
年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80以上	合計
男	1	0	3	9	4	8	11	8	5	49
女	0	0	2	7	6	7	6	6	11	45
計	1	0	5	16	10	15	17	14	16	94

最少年齢 男子 29歳 女子 43歳
 最高年齢 男子 90歳 女子 90歳
 平均年齢 男子 66.63歳 女子 69.38歳 全体平均 67.95歳

在所期間別調

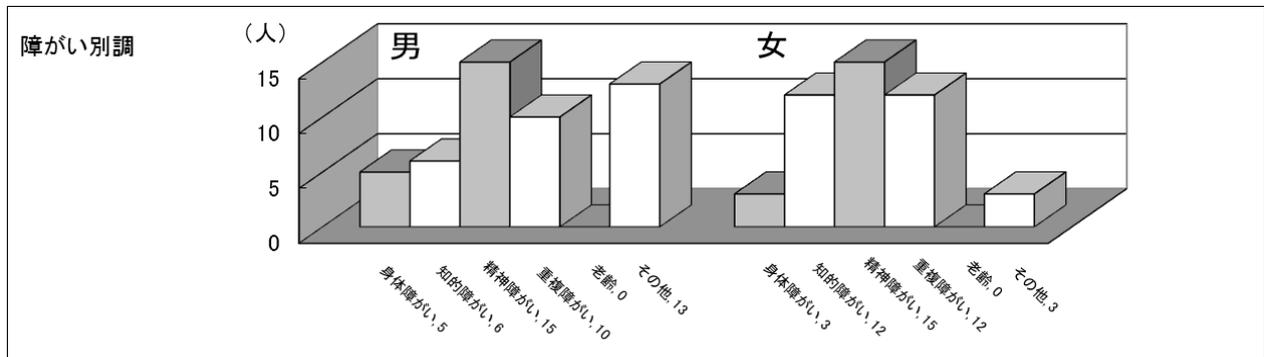
	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	合計
男	9	7	6	11	5	2	9	49
女	4	1	6	9	4	6	15	45
計	13	8	12	20	9	8	24	94

最少期間 男子 0年0ヶ月 女子 0年3ヶ月
 最高期間 男子 44年2か月 女子 26年9ヶ月
 平均在所期間 男子 11年11ヶ月 女子 12年11ヶ月 全体平均 12年5ヶ月



障がい別調

	身体障がい	知的障がい	精神障がい	重複障がい	老齢	その他	合計
男	5	6	15	10	0	13	49
女	3	12	15	12	0	3	45
計	8	18	30	22	0	16	94



障害者手帳保持調

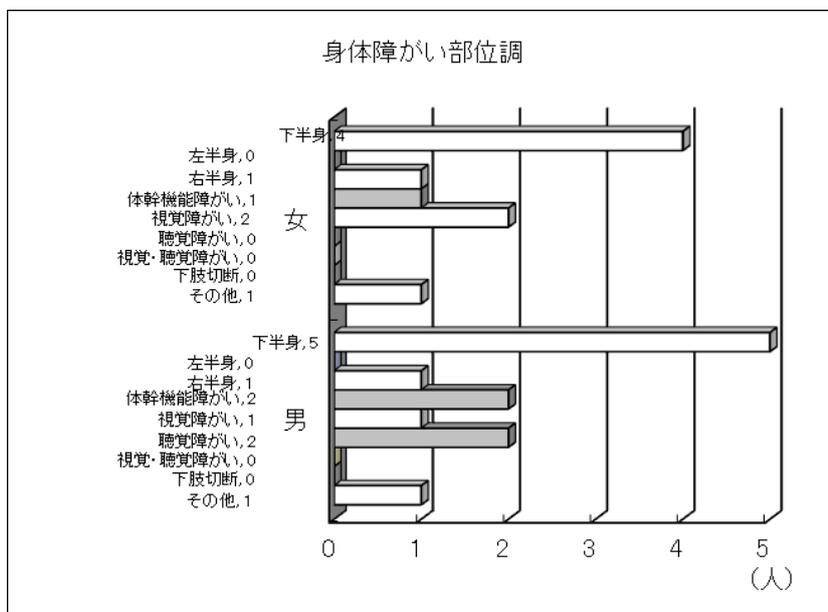
身体障害者手帳	1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
男	1	3	3	2	0	3	12
女	2	2	0	2	2	1	9
計	3	5	3	4	2	4	21

精神保健福祉手帳	1級	2級	3級	合計
男	1	16	0	17
女	2	21	2	25
計	3	37	2	42

療育手帳	A	B	合計
男	0	3	3
女	3	4	7
計	3	7	10

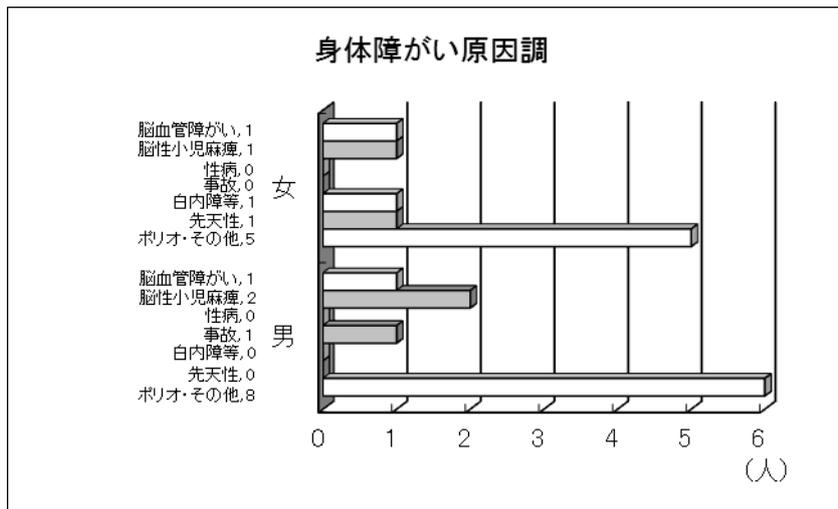
身体障がい部位調

	男	女	合計
下半身	5	4	9
左半身	0	0	0
右半身	1	1	2
体幹機能障がい	2	1	3
視覚障がい	1	2	3
聴覚障がい	2	0	2
視覚・聴覚障がい	0	0	0
下肢切断	0	0	0
その他	1	1	2
合計	12	9	21



身体障がい原因調

	男	女	合計
脳血管障がい	1	1	2
脳性小児麻痺	2	1	3
性病	0	0	0
事故	1	0	1
白内障等	0	1	1
先天性	0	1	1
ポリオ・その他	8	5	13
合計	12	9	21



知的障がい程度調

	軽度	中度	重度	合計
男	3	8	1	12
女	5	9	8	22
計	8	17	9	34

知的障がい原因調

	脳性麻痺	脳膜炎	その他疾病 事故	先天性	不明 その他	合計
男	2	0	0	8	2	12
女	1	2	1	18	0	22
計	3	2	1	26	2	34

主たる精神障がい名調

	男	女	合計
統合失調症	12	19	31
てんかん	4	2	6
アルコール依存症	6	0	6
うつ病	0	3	3
その他	1	3	4
合計	23	27	50

ADL状況調

	歩行				食事			排泄			入浴			着衣		
	自力歩行	補助具使用	車椅子使用	歩行不能	自分で可能	一部介助	全介助									
実数	73	10	11	0	63	29	2	65	23	6	50	29	15	73	13	8

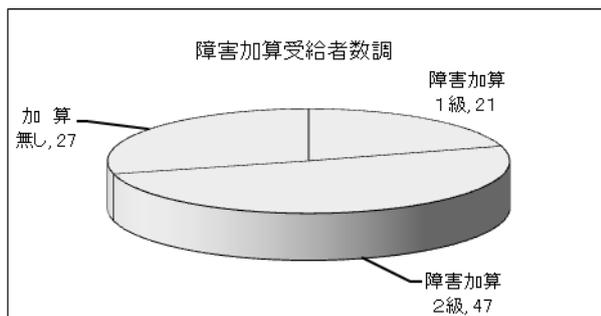
受給年金調

	障害基礎	老齢基礎	国民年金		厚生年金			その他	合計
			障害	老齢	障害	老齢	遺族		
男	14	1	0	0	0	8	0	7	30
女	26	4	2	0	0	0	3	2	37
計	40	5	2	0	0	8	3	9	67

- ・その他の年金は、道教育恩給、共済年金
- ・その他の年金受給者1名は他の年金と併給

障害加算受給者調

	1級	2級	合計
男	7	22	29
女	12	25	37
計	19	47	66



家族状況

	1	2	3	4	5	6	7	8	合計
	配偶者あり	親あり	兄弟姉妹あり	子供あり	1～4以外の親族あり	知人のみ	身寄りなし	不明	
男	0	6	31	2	3	0	5	2	49
女	0	6	30	5	2	1	1	0	45
計	0	12	61	7	5	1	6	2	94

実施機関別入所人員調

各市別人員				各支庁別人員			
実施機関名	男	女	計	実施機関名	男	女	計
札幌市	26	33	59	空知総合振興局	2	0	2
小樽市	1	0	1	上川総合振興局	1	0	1
北見市	2	1	3	根室振興局	1	0	1
江別市	0	1	1	オホーツク総合振興局	2	1	3
三笠市	5	4	9	十勝総合振興局	3	1	4
根室市	0	1	1				
北広島市	0	1	1				
岩見沢市	1	0	1	自由契約	1	0	1
砂川市	1	0	1				
恵庭市	1	0	1				
旭川市	1	0	1				
紋別市	0	1	1				
苫小牧市	1	1	2				
小計	39	43	82	小計	10	2	12
				合計	49	45	94

別表 2

職員配置状況

(平成27年4月1日現在)

区分	施設長	事務員	主任指導員	介護職員	介助員	看護師	栄養士	調理員	巡視員等 ほか	医師(嘱託)		合計
										内科	精神科	
定数	1	2	1	17	1	1	1	4(1)	0	(1)	(1)	28 (3)
現在員	職員	1	2	1	19	1	2	1	4			30
	嘱託									(1)	(1)	(2)
	非常勤等				(4)				(3)	(5)		(12)